「年齢を重ねることをどう受け止めたら良いか？」 2020.01.19(0)

2020 年 1 月 18 日（土）15:00-17:00

参加：12 名

司会・文責：堀越

1. 概要：
   ・初参加 6 名を含む総勢 12 名で、「年齢（＝歳）を重ねることをどう受け止めたら良いか？」という問いを掲げ、主に、若い方が善いのか、その原理は何かについて対話し、考えた。

2. 対話：
   (0) 問いの提起
   ・進行役から自身の年齢に関わる経験を少し紹介した上で、本日の問いを提起して、対話を始めた。
   (1) 参加者が自分の年齢を他者がどう見ているかを意識した事例（場面）：
   ・初めに、参加者から年齢について意識したり感じたりした経験を挙げてもらった：
   a) 常に他者から自分が何歳に見られているかを気にしている。
   b) 役者をしているが、撮影時には常に歳相応に見られているか、他者の目を気にしている。
   c) 大学３年生なので、就活面接において「過去のある経験を挙げて、どのように今の自分の生き方に活かしているか」を訊かれ、それを歳相応の「論理的に順序立てて話をする能力」が求められる。他者に論理的に話をすることは歳相応かどうかを測る能力ではないか。
   d) 老婆がフリル付きスカートを穿いていて一瞬ギョッとしたが、後でその驚きは不合理だと思った。
   (2) 考えるスコープは？
   ・人の誕生から死への一生を考えたとき、それを一括で考えることが本当にできるのか。20 代位までの知識や能力が向上してできることが増えていく成長期と、80 代以降のそれまでできていたことができなくなっていく老齢期とでは、異なる要因が支配している。
   →確かにそうだが、途中の 20 代から 30 代と、50 代から 60 代への移行とは何かが変わるのか。全ての世代に通用する普遍的な原理を考えたいので、進行役としては特定の年齢を定めなかった。
   (3) 年齢はより若い方が善いか？
   ・「年齢は若い方が善い」という見方が強いのではないか。それは、企業の就職機会における「新卒一括採用」に見られるように、社会が年齢を気にしているという背景がある。
   →その理由は、企業には定年制があって、企業は個人になるべく長く働いて欲しいと考えるからである。
   ・「若いことは善いこと」であると刷り込まれている。それは若いということがエネルギーや熱量があり、社会の役に立つ、何らかの貢献ができ、年齢を重ねるとその逆と考えられているからである。
   ・逆に、（少数だが）大人に見られる方が善いという場面もあり、若い＝幼いと見られることがある。
   ・若く、活力があることは、何かの活動ができると見られるので、善いと判断されるようになった。
   →若い＝善いと見られるようになった背景に、縄文に狩猟で生きていた時代は役に立つのは、長くても 30 代位までだったはず。現代スポーツでもそうなので、依然として若い＝善いが残っている。
   ・年齢を重ねる人に対する社会の見方は時代の価値観によるもので、それを超えた考えが欲しい
   ・若いことが善いと判断されるのは日本が独特ではないか。欧米の女性ではそうならないのに、日本で一般的に女性が電話で発話をするときに声のトーンが高くなる理由は「若く見られたいから」と聞いた。
   →欧米でもアンチエージング産業が一般化して成立している現状があり、日本だけではないはずである。
   ・男性が女性をパートナーに選ぶときは、子供を産める年齢かどうかは一つの基準にならざるを得ないし、それはある程度若いということではないか。
   ・仕事や婚活の場面で年齢を感じたり意識したりした経験は多くあったが、それを気にし続けているときつくて辛い。だから、そういう土俵には乗らないようにしている。
   →どうしたら、年齢の偏見から自由になれるのだろうか。
   (4) 「若い＝善い」の背景にある原理は何か？
   ・自分が小学校低学年生のとき、高学年生の先輩に憧れた。それは、彼らができることが多かったから、羨ましかったのだろう。例えば、小３生にはサッカーが体育で習っていないからできないのに、小６生は難なくスマートにプレイをしている等だ。一方で、昔は長老と呼ばれる人が何でも知っていて、適切に判断することができ、そういう人に憧れ、善いと思った。その善いと思うことには、何かをできるという可能性も含めてである。そこから現在私が思うことは、若いということが、何かをできる、また、できる可能性があるということになり、だから、善いという判断になるのではないか。
   →確かに、社会に若いということが何かをできるという見方があると思うが、それは本当か。
   ・何かをできるという可能性だけで言えば、新しいプログラム言語を習得するとき、20 代の新人でも、40 代の人も同じ程度の可能性はあるはずである。
   →だが、なぜか社会では、年齢が若い方が柔軟性は高い、年齢が上がれば新しいことをやるときの柔軟性が失われるという見方をしている。
   →生物学的に年齢が上がれば、記憶力が下がっていくという事実があり、ある程度は仕方がない。
   (5) 社会への貢献以外の観点について
   ・これまでは、年齢を考える切り口として、社会に貢献できるかどうかという観点が多かったが他の観点や価値観もあるはずなので考えてみてはどうか。年齢が後半になり、寝たきりになったら社会への貢献等はできなくなるはずである。
   ・年齢が高くなれば、何事にも新鮮味が薄れ、興味・関心あることが減っていくということがある。
   ・逆に、胃瘻等をして寝たきりになると、体は動かないが、何事にも邪魔をされずに自由に考えることができ、そういう自由な時間を得られる。
   ・私はモテるということに価値を置いているので、関係する他者の年齢は若い方が良いと考えている。
   →どうしても男性から女性を見ると若い方が良いし、反対に女性から男性を見ると歳上の方が良い。
   ・例えると新品か中古品だが、中古品でも良く手入れされたものは良いし、適正価格で取引されている。

3. まとめ
   ・「若い方が善い」という見方が深く社会に浸透している原因として、「若いと何かをできることが多い」という点が出され、問いの提起者として再認識できたことは収穫であった。対話の終盤に提起された「社会貢献以外の観点」については別の機会を待ちたい。

以上